

ダークサイドへ導かれなために

～SNSをはじめネット社会の扉をどう開くか？ そしてどう付き合うか？～

日 時 11月26日(水) 16:30～18:00
場 所 日下記念マルチメディア館1階メディアホール
講 師 神戸大学大学院工学研究科 森井 昌克 教授

昨年度 twitter による悪ふざけ自慢, それに LINE いじめや LINE 詐欺云々という SNS の問題が結構ありますよね, ソーシャルネットワークサービス, LINE だとか, まあいろいろアプリを使って, 今だったらいわゆるスマホですよね, ほとんどの人がみんな持っている, このスマホを使っていろんな問題が解決されるのがほんとなんですけれども, 逆にいろんな問題が起こっている。今回は, 解決するほうじゃなくて, いろんな問題, 特に身近な問題についてお話をしたいと思います。題目が『ダークサイドへ導かれなために』ということで, トラブルを起こさないためにはどうすればいいのか, っていう話をですね, 実際のトラブルの例を踏まえてお話をしたいと考えています。

さて今日の話はですね, 一般の人も含めてなんですけれども, 子どもにとってネットってものをどういうふうに考えてもらわないといけないか, っていう視点で現在の子どもたち, 小学生, 中学生, 高校生がどういう問題を起しているのか, あるいは引き起こす可能性があるのか, っていうことと, 今こういう時代なのでこういう問題が起こってしまうんですよ, っていう話とその問題の本質と, それからディスカッション, 私が考えているものを話させてもらいたいと思います。話の内容としては PTA 向きの話か, あるいは中学校, 高校の先生向きの話になってしまってるんですけども, それはちょっとご容赦いただきたいです。ちょうど 3 週間ほど前なんですけれども, ある中学校ですね親御さんの方にアンケートが配られてちょっと問題になりました。アンケート用紙には 4 番目の質問で「お子様は SNS を使っていますか?」SNS っていうのは LINE とか FaceBook とか Twitter とかプロフってものですけど, それに「はい」「いいえ」「わかりません」で選択させるんですけど, 5 番目が, この問いで「はい」SNS を子どもが使ってますと回答された方へ「本校では, 健全育成上, SNS は禁止する予定にしております。ご家庭でも SNS の使用を中止するようご協力ください」「何月何日まで中止させます」下にサインまでさせるところまであるんですよ。

これがじゃあ正しいのか, っていうふうなことが非常に大きな問題になりました。正しいっていう人もいれば, いややっぱりこれは間違ってるよ, SNS はやっぱり使わないといけないんじゃないか, あるいはもう止められないんじゃないか, という意見があるわけですね。これについて最後のほうでももう一度考えたいと思います。その考える材料をこれからお話しすることになっています。幼児・小学生, 中学生も含めて, 彼らっていうのは物心ついたときからネット環境っていうのがあるわけなんですよ。デジタルネイティブという世代なわけです。今の 10 代, 特に 10 代の前半っていうのは完全なデジタル世代です。物心ついたときにはもうすでに携帯電話もあって, パソコンもあって, あるいはすべてのものがネットワークにつながっている。テレビだって単にチャンネルとボリュームしかないテレビじゃなくって, リモコンとかいっぱいついてるわけですよ。そういうデジタルの世界の人間っていうのが今の小・中・高校生だということです。特に小学生・中学生っていうのは空間時間的に狭い世界に生きている, 彼ら子どもっていうのは狭い世界で生きているわけですよ。ネットっていうのはこれに相反するものなんですよ。狭い世界じゃないんですよ。逆に広がった世界のことなんですよ。インターネットっていうのは時間とか空間を越える世界です。子どもっていうのは平面的思考で目の前に見える世界がすべてなんですよ。過去を思ってどうだこうだとかも考えませんからね。もちろん未来のことも考えないわけですよ, 先がどうとかってあんまり考えない。ネットとは全然相反する世界で生きているのが小学生・中学生っていう年代なんですよ。だからネットを使わせたら問題が起きるわけですよ。じゃあ問題を最小限に抑えるためにはどうすればいいか, っていうふうな話が今問題になっているんですよ。問題を起こさないようにしよう, っていうのはもうそれは無理です。問題を起こさないようにしようとしたら, 逆に言うともう一切使わせない, って話になります。一切使わせない, っていうのはこれは大きな問題になってきます。

例えば小・中学生に使わせなかったとしても、高校生になったら当然使いますし、高校でも使わせなかったとしたって、絶対社会人になったら使いますからね。今パソコンだとか使わなくて仕事全然できませんから。でスマホがたぶんそれに置き換わってくるんですよ。パソコンは使わないけどスマホは使う、っていう話に必ずなってきます。パソコンっていう言葉があるうちはネットワーク社会じゃないんですね。コンピュータっていうのが発達した社会はないんですよ。本当の情報化社会になったらパソコンっていうのは死語になっているはずですよ。だから空気のようにコンピュータがあって、誰でもが使える、っていう世界、使うっていう意識さえなくなるのが未来の情報化社会なんです。でスマホはそれに近いんですよ。あんまり意識してませんからね、今スマホを使っていると意識しながらスマホを使っている人はほとんどいなくて、もちろんパソコンみたいなそういうふうな電子機器を使っている、っていう意識もなくって、単になんかの機械、みんなとつながっている機械という未来の情報化社会に近い機器になっているわけです。ただそれをみんなが理由もわからずに子どもが使っている、っていうことで大きな問題が起こりつつある、っていうことなんですよ。これ大人もほとんどそれに变化ありません。例えばスマホを完璧に使いこなせる人っていうのは世の中にほとんどいません。スマホの1%くらいの機能しか使っていません。ほんとにスマホっていうのはすごい機能いっぱい持っています。技術的にはあの機能っていうのはもう素晴らしいです。あんな1台がたかだか4~5万円で購入できる、っていうこと自体が驚きです。あれちょっと前だったら1台1千万円っていわれても全然不思議じゃない世界なんですよ。すごいものが入ってますからね。センサーだけ考えたら10個以上入っているわけですよ、GPSなんか当たり前ですし、それから温度センサー、傾きのセンサー、振動のセンサーだとか、いろんなセンサーが入ってて、もうかなり人間に近くなってるんですね、いろんなセンサー、カメラ、マイクも含めてっていう話になると、人間の五感に近いようなものをもうコンピュータが持っている。だからあれパソコンに比べたらすごい機械なわけです。それを意識して使っている人っていうのはほとんどいなくて、ゲーム、LINEで使っているとか、まあ電話で使っているかもしれませんが、ほとんどの機能を使っていない、使いこなせている人がほとんどいないというのが現状です。そういうふうなネット社会っていうものをどう考えればいいのか。ネット社会でも現実社会でも一緒です。幼稚園児・小学生・中学生を育てるときにやっぱりいちばんベースになるのは、

常に相手を思いやる心だとか、まあそういうことなわけですよ。常に社会の中で生きていく術っていうのを教える。ネット社会も同じで常にネット社会の中で生きていく術を教えないといけないわけです。その社会っていうのは人がいてこそその社会ですからね。だから自分+自分以外の人を考える、思いやる、っていう世界をやはり想定しないとイケないわけです。ただ、現実の世界では今まで何万年にわたって社会っていうのを築いてきましたから、自然とそれが身につくんですけど、ネット社会っていうのはこの10年、10年どころかこの5年くらいでできましたから、どうやって社会として認識させるか、認識するか、っていうことはまだわからないわけですよ。極端に言うと誰もわかっていないところもあるわけです。相手を思いやる、って言っても、目の前にいる人が相手じゃないんですよ。現実社会ってほとんどそれに近いです、目の前にいる人が相手です。ネット社会はそうじゃない。目の前の人を想定してる人じゃなくて、極端に言ったらネットにつながっている人全員を対象にして考えないといけないんですよ。だからそういう社会の中でどうやって生きていけばいいのかを、学ばないといけないのです。

今日のニュースでやっていたものですけど、ネットの書き込みで芸能人を脅迫し男性が逮捕されました。なぜ脅迫をしたか、っていうと羨ましかった、っていう話なんですよ。だからネットの世界っていうのはみんなわりと同等に考えているんですよ。昔はそのテレビに出ている人だとかタレントの人っていうのは結構上に見てたんですけど、今みんな同等なんですよ。だからちょっとテレビ出てる人がなんかいい目にあっていたら羨ましい、っていうことで私はこんなものになんてあなたそんなことができるのか、死んでしまえみたいなこと書いてしまうわけですよ。そういう事件っていうのがもう頻繁に起こってしまう。もうひとつ、最近の話題として、児童ポルノをRT(リツイート)した拡散容疑っていうので書類送検されています。RTっていうのは何かっていうと、誰かがネットのポルノだとか、あるいは問題のある画像だとか文章とかを載せた、それをAさんが書いてましたよ、っていうのをそのままの文章で他の人に流す、っていうのが単純RTです。ただのコピーをバツと他の人に回す、っていうのと同じようなことです。ここで大事なのは、それだけでも逮捕されるよ、っていうことです。誰かがやって書いてたから、それを他の人に見せたからといって言い逃れにならない、ってことなんですよ。まあこれ半分以上見せしめの意味があると思いますけれども、そういうふうにRTしただけで逮捕しました。その中に少年もいるわけですよ、14歳の中学生も児童

相談所に通告されてますけどただ単に面白いから、って載せただけなんですよ。注目されたいから。だからそれだけで、それだけでっていう言い方は悪いですけども、逮捕されてしまう、っていうことになるわけです。先々週ぐらいのニュースで高校生が同級生の全裸写真、動画をネットで投稿した問題で警察から捜査が入って補導されました。当然ですけどこれはいじめになってしまいますからね。これに近いようなことはもう日常茶飯事で起こっています。これはたまたまマスコミが取り上げて、大きな問題になっただけですけれども、マスコミに取り上げられなくてこの手のやつって頻繁にあります。後でもちょっとお話ししますが、ニコニコ生放送だとかツイキャスっていうのがあってですね、今もう生放送ができるわけですよ。特にスマホなんかそうなんですけど、世界中に対して中継できるんですよ。今高校の先生は生放送される、っていうのを非常に恐がってます。学生さんスマホ持ってますからね、いきなり生中継するわけですよ。さすがに授業中はだめらしいですけど、休み時間のときに友達の画像やふざけてる画像をそのまま出したりとかするんです。ふざけすぎていじめに見えるような画像とかもっとひどいような画像もあるんですよ。ただ今はネットっていうものの影響で、いたずらで済まない世界になっているんです。写真カプセルというアプリを使用して中3の男子が児童ポルノを公開し書類送検になりました。写真カプセルっていうのは写真を自由に載せることができ、それが誰でも見られるし、ある特定の人が見えるようにも載せられることができる。その写真を基にしていろんな人と話ができたり、それを機会にして知り合いになったりとかできるよ、っていうようなシステムなんですよ。この手のアプリっていうのはもう山のようにあります。ただこのアプリ自体はそんなに悪いものじゃないんですよ。使い方を間違えてしまうとさっきの事件みたいな話になるんですがね。さっきの中学生なんかはそういう画像を載せると注目されるので自分が注目されたい、っていうのと、もうひとつはこれポイントがつくんですよ。ポイントを餌にしていろんな人をとにかく抱きこもうとするわけです。これもたくさんの人が見ると少しずつポイントがたまるんですよ。そのポイントをためるとお金に換えることができる、っていうので、小遣い稼ぎで入ってしまう、っていうこともあるわけです。

LINEなんかでもいろいろな問題を起こしている。去年の問題でしたけれども、LINEを使って中学生だとか高校生が呼び出されて被害にあうということが頻繁にあるんですよ。LINEっていうのは仲間を作る、あるいは

仲間です話をするツールなわけですよ、コミュニケーションをとる非常に進んだツールです。だけどそれを悪い使い方をしてしまうと、例えばLINEはずしとか言いますが、仲間はずれにしたりとかである人を傷つけたりとかしてしまうわけです。あとこれはLINEが悪いんじゃないかって、やっぱり使い方がまずいんですよ。LINEは非常に優れたツールです、だから使ったほうがいいです、いろんな人が。特に最近LINEの使い方がよく聞くのは、おじいさんおばあさん方がLINEをすごくよく使っているそうです。なぜ使っているかといったら、お孫さんと話したいからです。孫のほうはおじいさんおばあさんと話すのはあんまり嫌ですからね、電話ですごく長いこと話されたら困りますから。でもLINEってほとんど1行の文章ですからね、すぐ書けるわけですよ。あるいは写真とかすぐ載せられるんですよ。だけどおじいさんおばあさんはやっぱり写真1枚でも送ってくれたらすごく喜ぶわけです。それに1文でも書いていたらすごくうれしく思うんですよ。それで今おじいさんおばあさんがLINEを使う、っていうのが非常に今話題になっています。そういう上手い使い方っていうのはできるんですが、LINEの使い方ほとんどはきっちりと教えないといけないよね、っていう話になっているわけです。ほとんどの人がLINEの特性だとかそういうの知りませんからね、どういうふうになっているのか、って全然わからなくて、一般の使い方と同じようにするので大きな問題になってくるわけですよ。自転車に乗るのと同じようにやっぱりLINEの使い方っていうのを教え込まないといけないですよ。インターネットの使い方っていうのは基本的に使ってみないと絶対わかりません、当たり前ですけども。だからネットを教え込もうと思ったら、使ってかつある程度失敗しないと絶対身につかないんですよ、そういう意味で自転車っていう例出してるんですけど、私もここで一生懸命講義をしても自転車絶対乗れませんよね、自転車の乗り方っていう講義を一生懸命1時間くらいやっただとして「はい乗ってください」ってサーってみんな乗るかといったら絶対乗れません。自転車ってのはやっぱり自分で乗ってみて2,3回こけながらやると覚えられるんですよ。ネットもそれと同じです。小学生・中学生ぐらいのときにちゃんと使ってある程度トラブルを起こさないと何が起るか、っていうのはわからないですよ。こちらがいくら言ったってね、こういうふうな使い方してはいけません、ああ使いなさい、っていうくらいついても、わからないです。わからないし、かつネットは進化しますからどんどん新しいツール出てきますからね。その度に書き換えないといけないから、そんな

なの無理です。だからやっぱり自転車と同じようにきっちり使いながら体で覚えていかないといけないんだということが大事だと思います。

例えばこれもちょっと前に話題になった話ですけども、防災局、内閣府からの防災ツイートっていう内閣府が出しているツイートなんですけどね、前に「アイドルが襲われた」というのを内閣府が流してくるんです。これ偽者じゃなくて内閣府のツイッターが盗まれてアカウントが乗っ取られてるんです。内閣府ですらこんなことが起こるんですよ。だからアカウントっていうのは結構乗っ取られてなりすましさせられてしまうことがあります。一般の人はおかしいと思わないんですよ、なぜか。我々は内閣府からこんなの流れてきたらおかしいと思いますけどね。普通はおかしいと思わなくてこれそのまま見て、それでそこをクリックしちゃうんですね、詳しくはここを見ろって、画像を見なさい、って書いてるからここをクリックするんです。クリックしたら何が起こるか。場合によってはアカウントから個人情報からアドレス帳から全部乗っ取られてしまう。かつ自分から他の人にこのツイートを送られる、これ内閣府から送られてますけど自分から自分の友達にこれを見なさい、ってまた送られてしまう。どんどんどんどんアカウントが乗っ取られる。こういうことが起こり得るんですね。この手のやつってのはスパムツイートっていうんですけどね、特にアプリ連携っていうのがあってどんどん自分の情報が盗られてしまうシステムになってる場合があるんですね。こんなことが日々起こってしまうということです。

それからちょっと話が変わりますが、ネット呼び出されてついていってしまっただけで殺されたりする、あるいはなにかの被害にあってしまう、っていうのはよくあるわけです。でもこの話っていうのはもう10年以上も前からあるんですよ。携帯電話じゃなくて電話でもそういうのあったわけですよ、ネットが出てきてからこういう話ってのはいっぱいあるわけです。今だったら小さいときからネットでは絶対知らない人とつきあってはいけませんよ、知らない人ともネットでも話をしても絶対に会いに行っちゃいけないよ、とかずっと言われてるはずですよ。だけどそれ無駄なんです。会ってしまうんですよ、心理的に圧迫したりとかいろんな手を使ってもう会わないといけない状況にするんです。小・中・高校生でSNSはもう当たり前になって小学校6年生ですらもう学年4人に1人がSNSを使ってる、結果的に100人に1人くらいは知らない人と会ってる。大概の場合は同じ世代の人と会ってるのがほとんどなんですけどね、隣の小学校の人

だとか、隣の中学校の学生とかと会ってるのが100人に1人なんですけど。だけど、その中のさらに10人に1人ぐらいいは大人と会ってるんですよ。これ大阪府の調査です、表には出てません。大阪は府警の人に聞くとどうも数百人から千人のうちに1人は確実に会っている、大人と。やっぱりこれはちょっと大きな問題になってます。

zidory (ジドリー) っていう、中学生、高校生の中で問題になっている自撮りをして、そのランキングをする、っていうアプリです。自分の自撮りをして、それをパッとネットにあげて、いろんな人からランキング投票してもらおうんですよ、一番になりたい、っていうのがあって、とにかくきれいに写して出す、っていうのが流行ってるんですよ。これ一番大きな問題は実はこれの利用要項っていうところをみると、今ちょっと変わりましたが、一番最初に出たときは、会社の方が好き勝手使えますよということが書いてるんですよ。ひょっとしたら変なところに勝手に使われる可能性がある。しかもそれが何年後に使われるかわからない。10年くらいたってから使われる可能性も出てくるわけですよ。この写真っていうのは名前も住所も当然載せていません、それは登録しません。だからわからないはずなんですけど、これ知ってる人が見たら『あそこに誰々ちゃんが載ってるよ』ってネットに書いてしまうんですよ、悪気がなく。そうするとそれを見たその友達の友達が『住所はどこだ』、『なにに中学校だ』とか書いてしまうんですね。そうすると個人情報がどんどん出ていってしまう、で一人歩きする、っていうことがあります。『2014年度女子中高生流行りものランキング』っていうのがあるんですよ。上半期で1位が『壁ドン』、2位が『おそろコーデ』、3位『ツイキャス』、4位が『スクールラブ』、5位『動画投稿』、っていう順番になってるんですよ。この中で問題になりそうなのは、このスクールラブってやつです。これ知ってます？学校で仲良くなった人とちょっと写真を載せましょうか、っていうやつなんですよ。自分が載せたり、あるいは友達が勝手に載せたりするんですよ。ただ単に手つないでるとか横に並んでるとかいうのは「これくらい別にいいじゃない、仲良いんだから」という意見も確かにあると思います。だけどこれよく考えるとやはり問題かな、っていうことがあります。『なににちゃんカップルになっておめでとう』って言って、勝手に載せてるんですよ。まあ本人らも「ありがとう」って書いてましたけどね。先程言いましたように「いいよね」という意見もあるんですけど、よく考えてみると、社会にはいろんな人がいて立場や場面が変わ

れば捉え方もやっぱり変わるでしょう。今はいいですけども、これ何年かたったら確率の問題でひょっとすると左側の男の人がすごいことをやらかして社会的に制裁を浴びるような人物になっていろいろ批判される、右側の人はひょっとしたらなんかすごく良家のところへお嫁に行っ、て、そういうふうなことになってるかもしれない。そのときにパッとこの写真が出てきたらどういう問題が起こるか、ってことなんですよ、一般的に。いやそれでも関係ないよ、って言うかもしれませんが、やっぱり一般社会的にはなんか問題にされる可能性っていうのは出てくるわけですよ。そこまで考えてるのか、っていう話です、まあ何も考えてませんよね、だけどそういうことがあり得る、っていうことなんです。

とにかく子どもがネットでやらかすことでバックになってる考え方一番問題点ていうのは子どもの自己顕示欲です。すごく高いんです、子どもの自己顕示欲は。誰でもネットスターになれる、あるいはなった気分になれる、っていうのが今のネットなんですよ。それを利用してビジネスに長けた大人がそういうアプリとかいっぱい開発してるわけですよ。例えば去年流行りました、ツイッターでの犯行自慢とかいたずら自慢なんですよ。コンビニの冷蔵庫に寝そべるだとか、そば屋の食器洗い機に入るとか、いろいろ問題になりました、次から次へと出てきました。コンビニは廃業になるし、そば屋は倒産するしっていうことで。神戸だと高校生が線路に入って記念撮影してて、JRからえらく怒られてましたよね、そういうことがずっと行われている。これはふざけて大人がやったことに関してでしたけれども、まあ何にも考えないでつい出してしま、っていうことがある。子どもはさらに何も考えてませんから自己顕示欲でそもそも目立ちたい、っていうのでいっぱい出してしま、っていうことですよ。それが将来的にその時点で、もう大きな問題になりますけれども、時間がたってからもどんどん大きな問題になっていく可能性もあって、しかもその画像だとか文章ってのは未来永劫残っていくわけですよ。ツイッターはバカ発見器って、今も言われてますけれども、気軽に書けることが災いしてこんなかたちになってしまうんですよ。使ってる人はネットっていうのをフレンドリーな機械、友達だけで使ってるものだと思込んでしまっているんですよ。だからこういうことが起こるわけですよ、どうしても。まあネット社会を理解してない、理解させるのは無理、かなり難しいことだと思うんですけども、学校では一般社会で生き抜く術っていうのを教えますけれど、ネット社会で生きる術っていうのは全く今のところ教えていない、しか

も親はネット社会を理解してない、それも当たり前です、自分が同世代のときにネットが無いわけですよ。たかだか10年でネットっていうのはいきなりパッと出てきましたから、そういう世界に生きてきたことではないのでまあわからない。かつ冒頭で言いましたように子どもっていうのは平面的にしか生きてないからネットと全然親和性がない。だからそういう中でいろんな問題が起こるのは当たり前だ、っていうことなわけです。さっき言った『ニコニコ生放送』、これだ、って真っ先に注目されたい、っていうのがありますからね。自分を世界中に対して生放送ができるような、そういうツールです。例えば中学生ぐらいがですね、『踊ってみました』『歌ってみました』っていうタイトルで自分が歌ったりあるいは踊ったりして、それを世界中に発信してるんですよ、それで目立とうとしてるわけですよ。だけど、それをまた上手く使ってビジネスにしよう、っていう大人もいます。こういうものがどうい、う影響を及ぼしているのか、っていうと、自己顕示欲がちょっと曲がってしまうと変なことが中継されてしま、うわけですよ。例えば踊ってましたっていうのを中学生がやるわけですよ、夜中の3時頃に、そうすると何が起こるか、っていうとですね、お母さんが怒ってくるわけですよ、下から。で、しかも技術がわかってない中学生ですからこれがずっと世界中に中継されてしま、う、しかも延々と一生残るっていう、こういうことがまああり得るわけですよ。延々と30分間「何してんの?!」っていうのをやりあ、うんですけども。で最終的にはどうなったか、っていうと、部屋に入ってきて4連ビンタして、で娘さんは家出、すぐ次の日には帰って来ますから問題は起こらなかつたんですけども。例えばあまりにも注目を浴びたい浴びたいと思う、ゆえになんか裸の画像を出してしま、たりとかね、それが問題になってくるわけですよ。イジメの画像なんかもありましたけども。小・中学生の犯罪っていうのは、こういうふうないろんなものがあります。

炎上って話に入っていくんですけども、自分とこの大学のこと言うんですけども、2年位前にうちの学生さんがですね、USJ でやんちゃをしました。それをツイッターに画像を載せました、っていうのでかなり批判を受けてですね、テレビだとか新聞とかにいっぱい書かれました。あれ実は裏話がほんとはいっぱいあるんですよ。外へ出てない話ってのがいくつかあって、これ確かに学生さんが悪いですが、USJ に行っ、てふざけたからね。例えばジェットコースターに両手あげて乗る、っていうのはやっぱり危険な行為ですからUSJ にとってはやっぱり悪い行為なわけですよ。あるいはUSJ で歩いているカップルを後ろからパッと

脅かしたとかね。そんな画像を撮って、ツイッターへ流してたわけですよ。確かにそれは悪いことです。悪いことなんですけど、朝のニュース、ワイドショーから、NHKのニュースからですね、全部に出てまで批判されるような行為か、っていうと、冷静に考えるとそうでもない部分もあるんですよ、よくよく考えると。しかも事件をツイッターにあげたのは3月11日でマスコミに取り上げられたのは4月の中旬以降なんです。じゃあ3月11日に起こしたものが、1ヶ月たつてどうしてマスコミとか新聞とかにいっぱい取り上げられてしまうの、空白の1ヶ月何があったのか、っていうと、大変なことが1ヶ月の間に起こったんですよ。3月11日にツイッターでパッとあがったときに、私このへんの専門ですから、あがったと同時に発見しました。掲示板とかにも書かれましたからね、本人呼んで、親まで呼んで、まず事実関係調べて、次にUSJに行って謝らせた。USJも、誰も被害者がいるわけではありませぬし大きな事件ではありませんので、まあ今後もうこういうことは止めてください。できればもうUSJへ来ないでください。っていうぐらいまで言われて、親も謝って、それで終わったんですよ、3月15日までは。じゃあそれが1ヶ月くらいたつてどうしてマスコミにいっぱい出てきたか、っていうと、最終的には炎上とかそういう話になってきたんですけどね。この1ヶ月の間に世の中にはですね、なんかちょっとおかしい人がいて、曲がった正義、歪んだ正義って言うんですか、ちょっとその変な正義感がある人がいて、神戸大はけしからん、こんなことをするやつが神戸大の学生っていうのはけしからん、っていうのをですね、非常に憤慨した人がですね、現実には1人です。その人が仲間4、5人集めて、頻りに電話かけてくるんですね、大学に。大学が、こういうふうな処置してますから、近々教授会も開いて大学としての処分も決めます、っていうようなことをいくら言っても、全然納得してもらえないんですよ。向こうが言うには、とにかく大学は会見を開いてすぐ新聞1面に全部謝罪記事を出して、しかもテレビに出て学長が頭剃って詫びろ、っていうんですよ。おかしい話ですけど。ただそれをしないと全然納得してもらえなくて、それをずっと電話かけてくるんですよ。電話だけじゃなくて、掲示板とかにいっぱい書くんですよ。それでもおさまらなくて何をしたら、っていうと、今度はマスコミのほうに電話かけるわけですよ、こんなことがあるよ、神戸大の学生はこんなことやってるよ、っていうような話を、あることないことまで含めて話を大きくして全部流すんですよ。でマスコミも大体分か

ちまうんですけども、それをずっと1ヶ月間続けられたわけですよ。で最終的にたまたまある新聞社さんが全く事件が無い日があって、その時に、そういえばこんな話がありましたよね、っていうのを思い出したのが4月11日ぐらいです、もうほんとに1ヶ月ちょうどたったぐらい。神戸大にいきなり連絡があったんですよ、USJに連絡があって、USJも、ああそういえばそんな話がありましたよね、というぐらい、もう詳細はUSJも分かりませんから、もう何も言わない。大学もああ確かにそういう事実はありました、って言って、新聞に小さな記事がパッと載ったんです。そこからです、もうその新聞の記事を他の新聞社が見たりテレビ局が見たりしてパッと大きくなっていった、っていう話です。で、その最初に執拗に電話かけてきた人と掲示板にいっぱい書いた人がそれを見て書いた一言が「大勝利」です。だからその人は何をしたらかかったか、っていうと、自分が発端となってそういう悪事を暴いた、っていうことを世の中に証明したかったんですよ。だからそれをずっと1ヶ月間にわたって執拗にやりました。本当はもう全部片付いてたわけですよ、全部各所に謝りに行って処分もちゃんと決めようとしてましたし、終わってたはずなのにそういうことが起こりうる。知らない間に、負のエネルギーを増幅するような人っていうのはいっぱいいて、で大変なことが起こり得るってことです。

最近あった話ですけどね、例えば高校生が酒飲みましたみたいなことをツイッターにパッと書いてしまうわけですよ、確かに酒飲むことは悪いことですよ、犯罪です。ですけども実名全部書かれて、過去の記事まで全部参照されて、これお酒だけでなくタバコも吸ってる、あるいはここら辺に遊びに行ってる、こんなことをしてるあんなことをしてる、学校を休んだりしてるとかいっぱい書かれて、プライバシーも全部暴かれてしまう。晒しだとか炎上ってのがあって、これを結構注意しないとイケないんですよ、今だから特別な人になるんじゃないかって、一般の人がこういう目にあう可能性ってあるんですよ。なんかちょっと油断したそういう火種になるようなものをあげてしまうと、その小さい火事でおわってしまうじゃなくて大きな火事になってしまう、炎上ですけども。いろいろ暴かれて、尾びれ背びれがついて、こういう大きな問題になる、っていうことが結構あるんですよ。他人を攻撃せずにはいられない人っていうのがいてですね、これについて精神科のお医者さんが本を書いているんですけどね。こういう人は街の中に一人や二人昔からいました、私が小さいときから、あるいは私が生まれる前からたぶんいました。変なおじさん

てやつです、いわゆるちょっと変わってる人っていうのはね、必ず街に一人や二人いたんですよ。だけど昔はネットっていうのはありませんでしたからその人が大声出してわめくかあるいはなんか変な文章を配ってどっかに貼るかとか自分らの街ぐらいでしか騒ぎにならなかった。それが今ネットっていうのがありますから、こういう人らが一生懸命ネットなんかで書いて、さらに他の人らと連携をとったりするといくらでも大きくできるんですよ。小さいことが原因で大きなそういう問題になってしまう。ターゲットにされてしまうと悲惨なことに遭うんだよ、っていう話です。典型的な例をちょっとあげておくと、ほんとに昔なんですけどね、スポーツ選手と芸能人が当時付き合っていて、それを偶然ホテルにいるアルバイトの大学生が見てツイッターにあげたんですよ。ただこれが東京の一流のホテルで、アルバイトとはいえ従業員がこれを書いたので大騒ぎになったわけです。守秘義務がありますからほんとに書いてはいけませんよ、ということ。で、まあ当然ですけどそれがちょっと公になると支配人が当然お詫びを書く。この支配人飛ばされてしまいましたけどね。これだけで終わるんだったらまだいいですよ。その大学生ですがあのツイッターをパッとあげると、2時間もしないうちにそういう専門のスレ、専門の掲示板みたいなのが立ってしまう、こんなことやらかしてますよとか書かれてしまうんですよ。まずそのツイッターから犯人探しです、もう1分もしないうちにどこの大学の学生かがスパッと分かるんですよ。1時間もしないうちにどんどん犯人探しが出てくるわけですよ。最終的にアカウントから住所から全部わかって顔写真、全身写真まで載る、っていう形になるわけです。当然名前から住所、氏名、年齢、履歴、どこの幼稚園出てて小学校出てて全部書かれてしまう。親がどこに勤めているか、っていうのも書かれる。親の携帯電話の番号、親が勤めてる会社の上司の名前、その電話番号まで書かれるわけですよ。その人の家の写真まで出てくるんですよ。たった一言、言っただけでこういうことがどんどん起こっていく、っていうのが今の炎上の世界なんですよ。こういう大きな問題が年に何回か起こってます。だからこういう被害に遭わないためにどうすればいいのかを考えないといけないですよ。やっぱり書く内容っていうのをよく考えないといけません。話し言葉じゃないんですから、話してる言葉っていうのは消えていきますけれども、ネットの言葉っていうのは消えていかないです。ずっと残る、しかも誰に伝わるかわからない、歪んだ正義感を持っている人に伝わってしまったらもう最後です。尾ひれ背ひれがついて、いわゆる『炎上』と

か『まつり』になってくるわけですよ。とにかくネットってのは「時間」と「空間」を超えるネット社会で何を引き起こすのか、っていうことを十分考えないといけません。これがなかなかわかんないんですよ。で、本当はネットってのはどういう効果があるのか、っていうことをまず勉強しないといけません。すけれども。

私が好きな映画で30年以上前の映画になってしまうんですけど、サイバーテロを題材にしたもので自分のところのコンピュータから国防総省のコンピュータに入っていく、で核戦争寸前までなってしまう、っていう話なんですけれども。学校のコンピュータに入っていく自分の成績をどんどん変えていく、っていう場面が出てきます。これが30年前のSFの世界だったんですよ。だけど、これが現実になって今実際に行われています。大学生が去年同級生の成績に不正アクセスして書き換えてました。ちょっと前のSFの世界が今現実の世界になっているわけです。だからそういう世の中で今生きていけないといけません。だよ、っていう話になっているんですよ。

今どういう世の中なのか、っていう話なんですけれども、人類の革命っていうのは、まず農業革命、産業革命っていうのがあって、今、じつは情報革命の時代なんです。これ簡単にいうと農業革命っていうのは農業とか牧畜ができるようになって、それのおかげで安定した生活、時間ができるようになって人間が偉いところは、その時間を使って物を考えるようになった、道具がくれるようになった、っていうのが農業革命の成果なんですよ。産業革命っていうのは、その物をつくる、っていうところを爆発的につくれるように、機械が機械をつくるようになったのが産業革命の時代でした。それがついちょっと前の時代だったんですよ。情報革命っていうのは何か、っていうと、これは自動的に物を考えることができるようになった、なりつつあるのが情報革命です。だから知恵が知恵をつくるようにできるようになった。どうやってつくるようになったかという、コンピュータとネットワークっていうのが結構成熟してきたからです。1980年代ぐらいにコンピュータは結構成熟してきたんですけどネットワークの技術が追いつかなかったんですよ。それが1990年代末から21世紀にかけてネットワークの技術がかなり成熟しました。それによって情報革命っていうのは起こったわけですよ。だからもう知識が知識をつくる時代にこれからはなりつつある。これが急激にきたんですよ。実は人間の生活スタイルっていうのは、平安時代からついちょっと前までは同じだったんですよ、人間の生活スタイルは。だけどこの10年とか15

年ぐらいで全く変わってしまった。それは情報革命のおかげです。異論はあると思うんですけどね、ちょっと田舎に行ったらほとんど平安時代と同じような生活してたんですよ。それが全く今変わったっていうのが今の時代なんですよ。全く社会が変わろうとしている、こういう中でいろんな問題が起こるのは当たり前なんです。だから小さい問題としては、小・中・高校生、あるいはみなさんが抱えるような問題として、SNS を使ったりだとかネットワークを使ったりっていうのでいろいろ問題が起こりつつある。もっと大掛かりな話としては、サイバーテロで今国家間は非常に大変な目にあってるんですよ、どうやって防ぐのかっていうので防衛上の問題となっているわけです。まあそこで、一般の人がじゃあどうやってネット社会で上手く生きていくようにならないといけないのか、スマホだとか、あるいは SNS とかいうのをどうやって上手く使いこなせるようにならないといけないのか、っていうことで今小・中学校っていうのもいろいろ考えてます。その中で情報通信倫理っていうのがあって、平たく言えばネット社会で生きる術、そういう共通規範、あるいは守るべきルールっていうのをちゃんとやっぱり確立させて、それをきっちり教え込まないといけない。これは実社会では知らない間にやっている、まあ1万年以上時間がありましたからね、ゆっくりとそういうことは学んできたわけですよ、人間も。だから知らない間に、物心ついたときにはそういうことはどんどん身につけているわけですよ、教えながら。いろんな人に教えられながらね、学校だけじゃなくて。それがネット社会ではそういうものが無い。『人を傷つけない』とか『約束は守る』だとか『盗まない』とかそういうことは当たり前のこととして教育されているわけですよ、いろんなことが。ネット社会ではこれに対応するようなこと全くと言っていいほど教えられていない。その典型が、これですよ。著作権だとか情報漏洩だとかプライバシーを侵す、っていうふうなことが先程のことに対応するわけです。著作権っていうのは、実はネット社会では窃盗や万引きとかと同じです、情報漏洩っていうのは、場合によっては財産盗まれることと同じだと。プライバシーを侵すというのは、ネット上で人格を侵すわけですから傷害と同じなんです。だからそういうことを起こしてはいけないよ、っていうことを身につけさせないといけないですね。なかなかそれが分かっていない。ネットワークの特性として時間と空間を超えてしまうんですよ。そういうふうな世界っていうのがやっぱりわかんないわけですよ、だからそれをどうやって教え込むか、って話になるんですよ。その例として、小中学生、大学

生もそうですけど何かを調べてこい、って言ったらすぐネットを調べてそのままパッと書いてくるんですよ。書いてくるんだったらまだしももうコピーして貼って、そのままレポートで、大体今レポートは大体電子メールで提出させますから、あるいは PDF とかなんか作って、もうほんとに貼るだけ、と思っている。だからそういうことをしてはいけない、なぜだめなのか、っていうところから教えないといけないんですけどね。例えば、ある中3少女が詩コンクールで賞取り消し、これ結構大きなニュースに当時はなりました。詩の世界では天才、っていう100年に一人っていう少女が現れたんですよ。もう出すコンクール全部一等賞でしたから、その詩の世界ではね。だけどもある時に、ちょっとこの詩はどっかで聞いたことがあるぞ、っていう人がいて、で実際調べてみたら盗作だったんですよ。今までの全てのコンクール全部盗作だったんです。ただその女の子ってのは悪気はないんですよ、彼女の手としてどうやったか、っていうと、詩のサイトとかいろいろなところを見て、自分の気に入った詩を持ってきて、それをちょっとだけ変えるんですよ。ある意味ではすごい才能なんですよ、全然賞を獲れない作品から盗ってきてそれをちょっとだけ変えて賞を獲らせるんですよ、それはすごい才能なわけなんです。だけれどもやっぱり盗作は盗作なんですよ。最初のアイデアはその人のアイデアではないですから。だからそれが悪いことっていうのはやっぱり気づかないわけですよ。そういう問題っていうのは結構起こっている。実際の例ですけどね、私、2,3年ほど前まで、100字以内ぐらいで、ドコモの携帯電話を使ってなんか非常に印象に残るようなシーンが浮かび上がるような一文を作ってください、っていうふうなドコモのキャッチフレーズのコンテストがあって、その審査員をしました。その時大体全国で6千件近く応募があったんですけどその内の半分以上、3千件以上は盗作でした。その盗作っていうのはほとんど映画か漫画のセリフか小説の一文ばかりです。最終選考に入ってきた15編の中の中でも3点以外は何かの盗作の可能性が高いということで省きましたからね。だからみんな最初から盗作しようと思ってやってるんじゃないかって、知らないうちに悪気が無くやってしまう、っていうのがあるんですよ、こういうフレーズをどこかで見たような思いはあるけれど、まあ出してしまえというふうにな。それは非常に悪いことなんだ、っていうことが、やっぱり染み付いてないわけですよ。我々の世代なんて著作権なんて全然関係ない法律でしたから。たかだかレコードをカセットテープに入れて友達に貸したって、厳密に言えば著作権法違反かもしれませんが、

それは罪には問われませんでしたからね、ほとんど。だから著作権法なんて関係なかったわけですよ、一部の人にしか。だけど今はほんとにそれがだめなんですよね。昔だったら友達にコピーしたってその友達が楽しむ、あるいはその友達がまた友達内で貸すぐらいでしたから広がらなかったんですけど、今はどこかのwebに載せたら世界中の人が一応見れますからね。だからそういうふうにもう世の中変わってしまっている、っていうことです。とにかくそういうネットの問題っていうのは今山積みです。いろんな問題、いくつかの例を出しましたけれども、著作権とかプライバシーの侵害とかも含めて、どうやって解決していけばいいのかという話になるわけですよ。一番の最大の原因はなんかわけがわからないから、っていうことなんですけどね、知らないことが不安の最大要因になっているわけなんです。大体この傾向っていうのは、全く分かりません、っていう人と、不安だ不安だ、っていうふうな両極の人に大体分かれてて、ちょっと分かってる人はすごく不安がっているんですよ。こういうふうなトラブルに巻き込まれたらどうしようとかみんな思ってるわけです。あるいは全然こんなこと何も気にしないで何も考えてない人か、2つに分かれています。ただ原因自体は知らない、っていうことがやっぱり大きいんですよ。問題の原因としては、ネットはさっきから時間と空間を云々っていう話をしてますけれども、もうとにかく空間と時間を超えるんですよ、ネットってのは。ただ昔だったら例えば悪事千里を走る、ってよく言いましたけれども、ネットでは千里走るところか一瞬で地球の裏側まで伝わるわけです。これは言葉のあやで地球の裏側に伝わる、っていうふうじゃなくって、ほんとに伝わっているんですよ。もうひとつ、人の噂も75日って昔は言いましたけれど、今75日じゃないんですよ、ネットでは未来永劫残っている。だからこういう現状があるところっていうのをどう対処するかっていう話です。情報の速度とかエネルギーに全然ついて行けてない、っていうことなんです。解決策はじつは無いですよ、っていう話になってしまいます、残念ですけども。だけど実は昔から似たような状況っていうのはありました。例えば1960年代の電話依存ってあって、小・中・高校生の話ですけどね。夜中に電話をする、というのが非常に問題になったんです。女子中学生・高校生、一晩中電話するんです。当時電話代は市内通話だと3分10円じゃなくて1回10円だったんです。だから夜中じゅうできるんです。夜中に親が全部寝静まった12時ぐらいから電話して、明け方まで友達と話をする、っていうことが大きな社会問題になりました。社会問題になった

のが原因かどうかわかりませんが、1972年に3分10円にいきなり電話代が高くなってしまいました。それで一旦はおさまったんですけども、それが70年代にはテレビとかマンガの依存症っていうのがよく問題になりました。夜中のテレビ見ないと学校に行ったときに話題に乗れない、だからテレビを見てしまう。やっぱりつながりたい、仲間内に入りたい、こういうことをしないと仲間に入れない、っていう状況があったんですよ。だからそれぞれに対して時代時代で一応解決策っていうのはいくつか出てきて、なんとか越えられてきたわけです。じゃあ現在のスマホ依存、あるいはLINEに対して、どうしたらそれが克服できるのか、っていう話になるわけですよ。LINEぐらいはあんまりたいした問題じゃありません。自然に落ち着いてくるでしょう。夜中にもLINEのメッセージがっぱいきてますね、それに真面目に対処しないといけないというので夜寝られないとかいう中学生が大勢いるんですけども、そのうちにそういうことはもう馬鹿らしいよね、っていう話に必ずなります。だから問題はそこじゃなくって、実はそういう情報化っていわれているような大きな波ってのがもっと来てるんですけども、それにどう対処していくか、っていう話になるんですよ。だからそれも含めてとにかくネットに支配されないこと、っていうのが一番重要になります。ネット中毒なりスマホ中毒、ネット依存とかいろいろありますけれども、ネットを使いこなす人に育てるんだと、子どもとかそういうものに対してはですね。なかなか大変ですけども本質は昔から同じで子どもだったらつながりたいという意識があって、それを前提にしたいろんな問題が起こってきている。LINE外しっていうのはそういう仲間はずれになる、っていう話なんですよ。今のこの情報通信っていうのはどういう技術に基づいているのか、っていうのはある程度教えないといけないんですけども、ネットっていうのはどうなってんのか、っていうのはやっぱりちゃんと教えるべきです。本質的なところをね。LINEがどうだこうだとかいう話じゃなくって。だからネットっていうのは目の前にあるのがネットじゃないんですよ、ネットっていうのは丁寧じゃなくって、あるいは立体じゃなくって、もっとつながってるんですよ。具体的にいうと、例えば自分の一言が何を起こすのか、っていうのを瞬時に考えるような力を備えさせないといけないんですよ。今は無理です、けどどたぶん何十年後かはみんなそれが自然と身につくようになってきます。現実社会ではそうなっていますからね。例えば我々の社会ってのは、ここに行ったら危ないよとか、この路地を曲がったら危ないよ、っていうのは、いち

いち全部教えられてませんよね。だけど我々はこちら曲がったらずそうだなとか雰囲気で見分かりますよね。あれはどうか、って言ったら、ちゃんとそれ学習しているからなんです。ネットもそれと同じです。それがどんどん身についてくるはず。我々は身につけていません。だからいろんな被害にもあいますし、いろんなことが起こる。だけどこれからの人っていうのは、どんどんそういうふうなネットで小さいトラブルを負って、そういうことを繰り返しながら学習していけば何がまずいのか、っていうのは分かるはず。なんかクリックしたからって、マルウェアに引っかかる、っていうこともこれからはなくなってくるはず。まあなくなってくるはずとはいいつつも、もっとその上へ行くような技術がどんどん出てくるんですけどね。いちごこの部分はありますけれども、簡単に引っかかるようにはならなくなってくる。教育現場だったらこういうことをちゃんと教えないといけない。

最後にですね、『13歳の息子へ、新しいiPhoneと使用契約書です。愛を込めて。母より』っていうのがあってですね、是非一度読んでみてください。結構子どもに対してどうのこうのだけじゃなくて、スマホだとかネット社会で生き抜くためには何を考えないといけないのかという本質的なことが書いています。ちょっとまとまりが悪くなったんですけども、SNSとしては、あるいはスマホを使うために、何に気をつけないといけないのか、どういうことが起こるのかっていう話を中心にして今のネット社会の説明をしたつもりだったんですけども、これを機会に、こういう事例があるよ、っていうのを頭に入れていただいて、いろいろ考えてもらったらなというふうに思います。ということでこれで終わらせていただいて、最後にみなさんからの質問があればと思いますので、よろしくお願ひします。どうもありがとうございました。



森井 昌克 教授

- 1989年 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程通信工学専攻修了，工学博士
- 1989年 京都工芸繊維大学工芸学部助手
- 1990年 愛媛大学工学部講師，助教授
- 1995年 徳島大学工学部 知能情報工学科教授
- 2005年 神戸大学大学院工学研究科教授